

06.11.21 一新塾名古屋勉強会 定例会記録

日時 平成18年11月21日(火) 19:00~21:30

場所 名古屋ボランティアNPOセンター

出席 近藤、榊原、宮田

記録 宮田

1 市民の市民によるサービスづくりプロジェクト(榊原さん)

中間発表の反応はいまいちと感じた。プレゼン準備不足で、聞き手に伝えきれなかった。

コメンテーターからは、箱ものをつくれればいいのか、という誤解された指摘も受けた。

ただ、現状、決して成果がないのではない。中間支援組織を見て回ることで、それぞれで、大きな気づきがあった。その先に市民サービスを創り出す兆しを見出すことができれば、卒塾までの成果としては良いのではないか。このプロジェクトはそのように持っていきたい。

評価の高かったチームは「旅人天国」で、東京の日雇い労働者などが泊まっている地域を外国人バックパッカー等の拠点としていこう というもの。それが賞をとった。分かりやすい社会的ニーズを喚起するものを見ることができる。

神戸視察を予定、来月第2週、第3週を予定、プロジェクトメンバーは各自出欠と都合をメーリングリストで今週中に連絡すること。仮に13日~14日とする。

2 社会経営システム研究所(近藤)

市議会議長など宛にファックス財政ランキング送り、資料をファックスしている。

今度は市長宛に送る予定。

資料は人口規模などを加味し、纏めたほうが良いのではないかと。田舎と都会は違う。

分析はまっとうなもの、正当性があるとおもわれ、それが現状だがそれをどう世の中に役立てるかが課題。議員のコンサルティングサービスは継続して価値があると思うが、公共の調整ごとの中心には行政があるので、そこで利用してもらわないと意味がない。

どこかの現場で、事業を市民なり第3者がひとつひとつ事業を検証・監査し、かつ代替案を持っていく方向を検討したらどうか。そこで初めて議論が巻き起こる。その先に「民でできることは民で」という方向性、つまり「小さな政府」を作っていく

奈良の市民マニフェストは、確かに市民が纏めたものだが、官民が分裂しており、民のプロジェクトのみの穴の空いたパッチワークになっている。つまり全体性が欠如しているのでマニフェストの持つ意味が薄れているが先のような事例ができれば日本でも先進的な事例となる。

宮田の知人に行政改革担当者がいるので、一度話を持っていく。

3 安城市エコサイクルシティ計画策定ワーキング(榊原)

安城市でのエコサイクルシティ計画(自転車利用促進政策)の策定ワーキングに参加している。実施計画の段階に入り参加者ひとりずつの提案となり、自分は「人づくり」: 施策実施の主体となるサポーター育成を推進していくことを提案。行政側進行役から、いきなり決戦票決で実施計画を決めると進行言われ、ワーキング参加者からブーイングが起こるが、とりあえず投票となる。結果、「人づくり」は第3位。1位は「自転車マップ作り」2位が「自転車イベント」。もめた上に次回からは上位3位について議論検討することになる。「人づくり」は生き残る。しかし、行政職員からは、策定の期限が12月までということで手間のかかる話には持っていきたくない、その場で伝えられる。行政主体の単発イベントに施策をもっていかれたくないので、ワーキング後、「人づくり」の企画書を一方的につくり、市役所の担当者にメールで送った。今は反応を待っている。

別で愛知県主催の安城商店街のサポーター養成講座に参加したが、内容がいまいち。他の参加者も不満を覚えたらしく、参加していた日本福祉大学の学生の一人がまちづくりチームを作りたいとのことで、賛同し、25日に初めての会合を行う。

4 まちづくり協働研究所（宮田）

現在、加納屋の女将プロジェクトについてイメージキャラクターをつくり情報発信をしていくことで推進している。実際にそのイメージキャラクターに取材をしてもらい地域やスポンサーを紹介する。Web2.0での発信がメイン。

簡単な地域メディアで、現在取り組んでいる農地の流通をはじめ、古民家の流通、物産の紹介、販売なども併せて提供できれば良いと思っているが、まずできることをやるつもり。

同様に他の宿場町にも展開し、点を強化した上で線として繋げる作戦。

そのほか、お酒を高付加価値化しての提供なども試みているが、需要を作り、域外に流通させることで、地域の自然や文化も守っていく動機が生まれる面もあるので域内での流通は一定コスト内（コミュニティビジネス）で、域外の流通は高付加価値化（マーケティング）して発信し、自然や文化の継承（温故知新）していくことが妥当なところだと思っている。